

第26回経営・経済動向調査

(社)関西経済連合会
大阪商工会議所

目次

概要

1. 国内景気.....	2
2. 自社業況.....	3
(1) 総合判断.....	3
(2) 個別判断.....	4
3. 次回の日銀追加利上げ実施の予想時期と予想される影響について.....	6
(1) 次回の日銀追加利上げ実施の予想時期.....	6
(2) 追加利上げが景気に与える影響.....	6
(3) 利上げが景気に良い影響を与えられる要因.....	7
(4) 利上げが景気に悪い影響を与えられる要因.....	7

概要

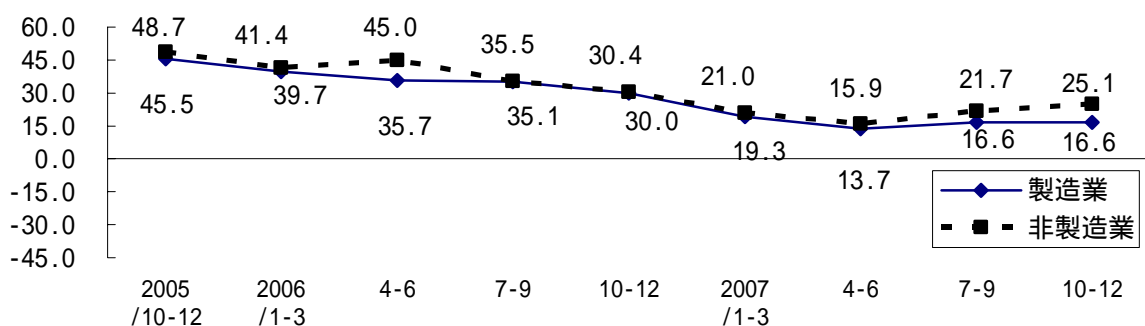
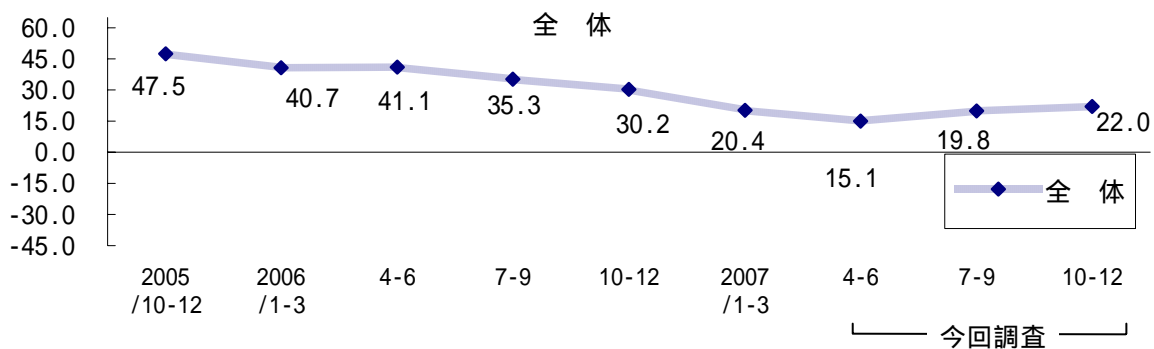
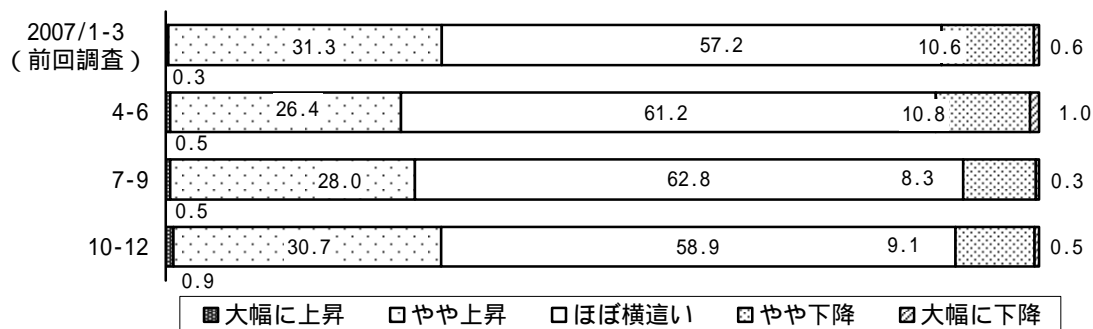
1. 調査対象
 関経連・大商の会員企業 2,023社
2. 調査時期
 2007年5月24日～6月1日
3. 調査方法
 調査票の発送・回収ともFAXによる
 四半期ごとに実施
4. 回答状況
 583社(うち大企業232社、中小企業351社)
 企業区分は中小企業基本法に準拠
 有効回答率：28.8%

< 今回の調査に関するお問い合わせ先 >

(社)関西経済連合会 経済・経営グループ 中畑・壺井
TEL：06-6441-0102

1. 国内景気

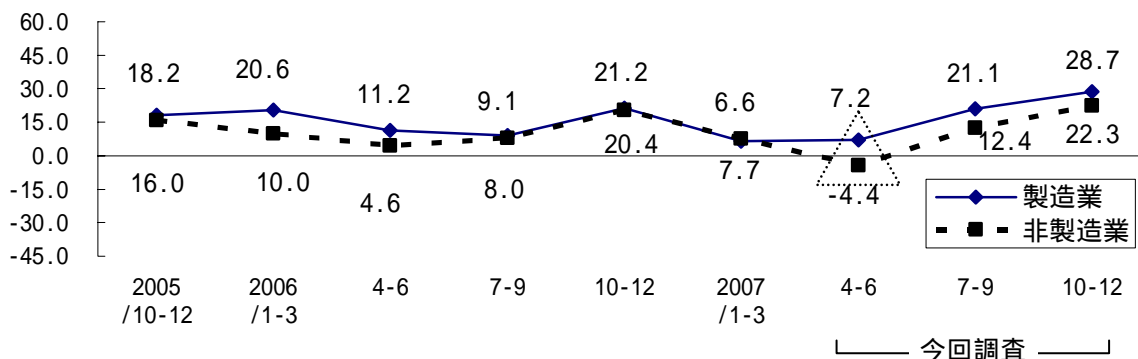
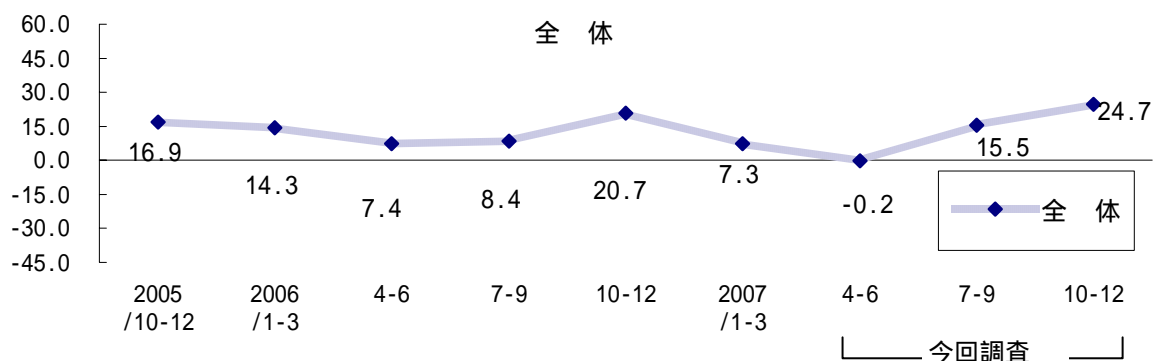
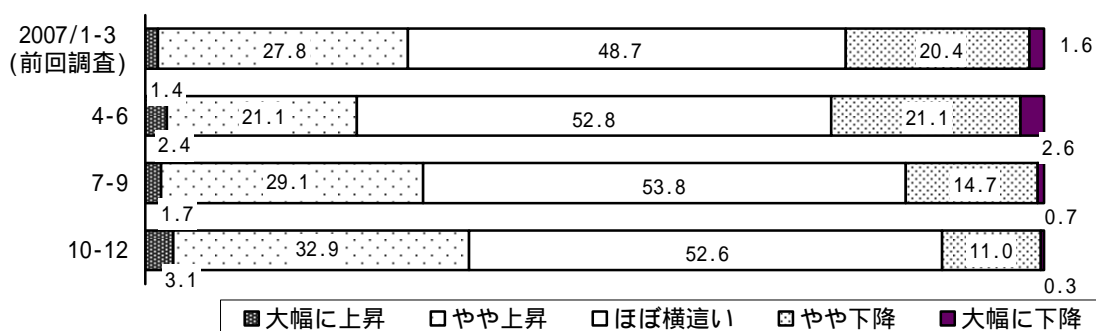
- ・2007年4～6月期における国内景気の実績見込みを「上昇」（「大幅に上昇」「やや上昇」の合計、以下同じ）とみる回答は26.9%となり、前回2007年1～3月期実績の31.6%より4.7%ポイント減少している。また、「下降」（「大幅に下降」「やや下降」の合計、以下同じ）とみる回答は、11.8%となり、前回2007年1～3月期実績の11.2%より0.6%ポイント増加している。以上の結果、BSI（Business Survey Index：「上昇」割合－「下降」割合、以下同じ）は15.1で、前回の20.4から下降した。なお、BSIが20.0を下回ったのは、05年6月以来2年ぶり。
- ・先行きの見通しについて、7～9月期のBSIは19.8と、足元の水準から上昇しているが10～12月期は22.0となり、好調さは緩やかに拡大していくという見方となっている。ただし、足元実績・3か月先行き見通しは、前回調査（2007年3月）時の先行き見通し（4～6月期16.0、7～9月期20.9）よりも、低下している。
- ・関経連会員企業は、10～12期先行き見通しを、足元よりも好調さがやや下降するとみている。
- ・非製造業の方が製造業よりも、実績・先行き共に上回っており、先行き見通しは差が徐々に広がっている。



2. 自社業況

(1) 総合判断

- ・ 自社業況の総合判断は、2007年4～6月期における実績見込みのBSIが0.2で、前回実績見込み（2007年1月～3月期）の7.3から下降し、ゼロを下回った。
 なお、BSIがゼロを下回ったのは、2005年6月以来2年ぶり。
- ・ 先行きBSIは、7～9月期が15.5、10～12月期が24.7と、今後足元水準から上昇を続ける見通しとなっている。
- ・ 関経連会員企業の2007年4～6月期の実績見込みは4.8と、前回実績値の15.6よりも下降した。
 なお、全体の業績見込みの0.2は、大商（中小企業中心）も含めた回答であるため、中小企業は大企業よりも比較的厳しい判断となっている。
- ・ 製造業、非製造業別では、2007年4～6月期の実績見込みは、製造業が7.2で上昇しているのに対し、非製造業は4.4とゼロを下回った。
 なお、7～9月期以降は、製造業が非製造業を上回る水準で上昇していくものと見込まれる。



(2) 個別判断

➤ 生産・売上高について

2007年4～6月期実績見込みは「増加」が23.8%と、「減少」の27.7%を下回っている。

一方、先行きは7～9月期は「増加」が「減少」を上回り、さらに10～12月期は「増加」が拡大し、「減少」は縮小している。

➤ 製・商品の価格について

2007年4～6月期実績見込みは「上昇」が21.9%と、「下降」の7.3%を上回っている。

先行きは、「上昇」が「下降」を上回っているものの、「ほぼ不変」とする回答が大勢を占めている。

➤ 経常利益について

2007年4～6月期実績見込みは「増加」が17.8%と、「減少」の31.9%を下回った。

一方、先行きは7～9月期に「増加」が23.3%に対し、「減少」が22.9%となり改善している。

10～12月期は、さらに改善幅が拡大している。

➤ 雇用判断について

2007年4～6月期実績見込みは「不足」が17.1%、「過剰」が6.1%と、「不足」が「過剰」を上回っている。

先行きも、不足感が継続する見込みである。

➤ 製・商品在庫について

2007年4～6月期実績見込みは「過剰」が18.3%で、前回(2007年1～3月期)の18.3%と同水準で推移している。

一方、「不足」は2.1%で前回の5.2%よりも改善している。

先行きは、「ほぼ適正」とする回答が増加しており、「過剰」感は和らぐと見込まれている。

➤ 資金繰りについて

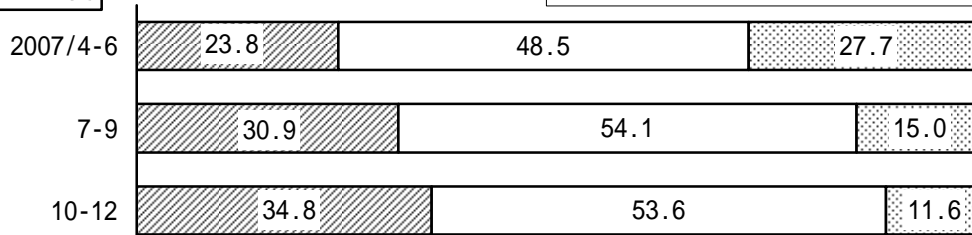
2007年4～6月期実績見込みならびに先行き見通しは、安定推移すると見込まれる。

先行きについては、「ほぼ不変」が大勢を占める状況が続く中で、「改善」が「悪化」を上回ると見込まれている。

全体集計結果

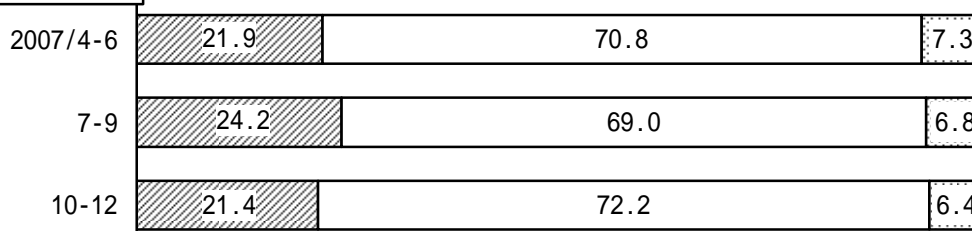
生産・売上高

■増加 □ほぼ不変 ▨減少



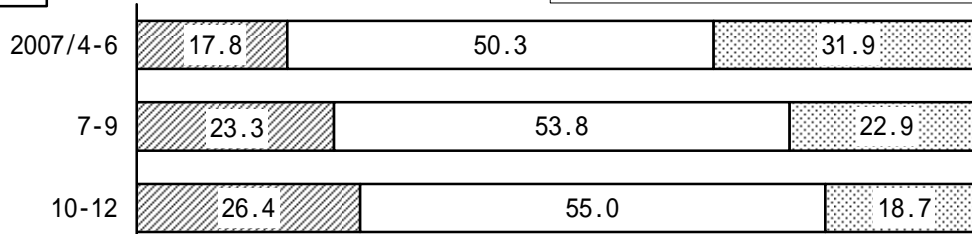
製・商品の価格

■上昇 □ほぼ不変 ▨下降



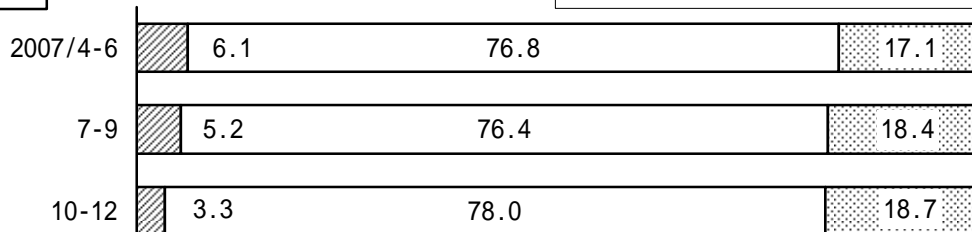
経常利益

■増加 □ほぼ不変 ▨減少



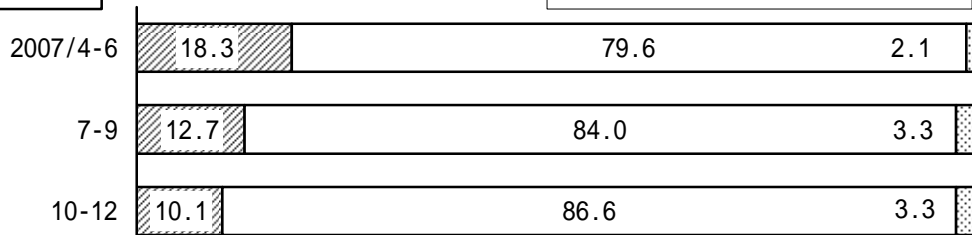
雇用判断

■過剰 □ほぼ適正 ▨不足



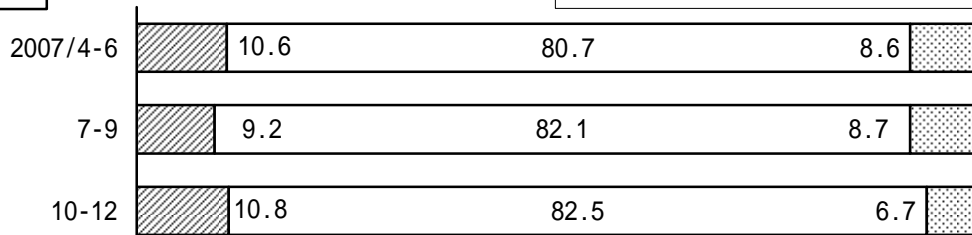
製・商品在庫

■過剰 □ほぼ適正 ▨不足



資金繰り

■改善 □ほぼ不変 ▨悪化

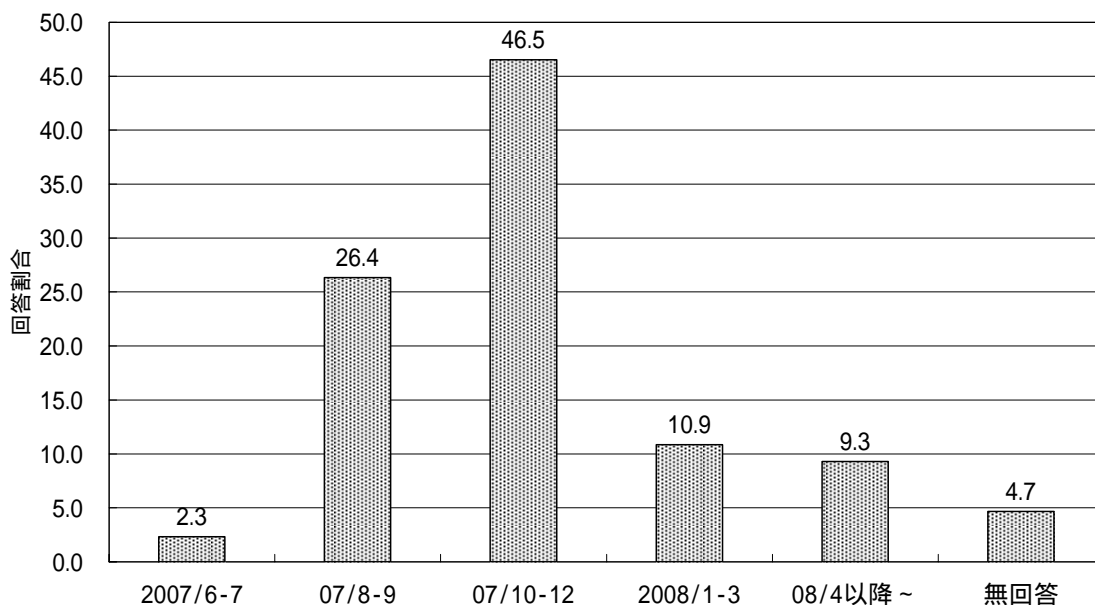


3. 次回の日銀追加利上げ実施の予想時期と予想される影響

(1) 次回の日銀追加利上げ実施の予想時期(回答を1つ選択)

「2007年10～12月」が46.5%と全体のほぼ半数を占め、次に「07年8～9月」が多い。2008年以降の回答は少数であった。

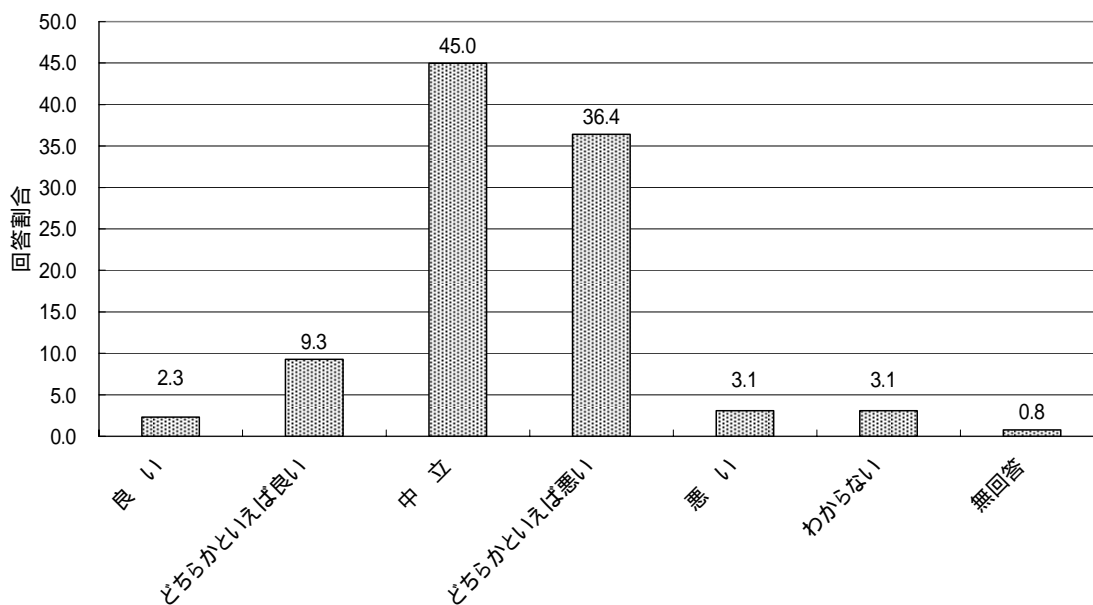
次回日銀追加利上げが予想される時期



(2) 追加利上げが景気に与える影響(回答を1つ選択)

「中立」が一番多く、「どちらかといえば悪い」とする回答が続いた。「どちらかといえば良い」との回答は9.3%で、3番目となった。

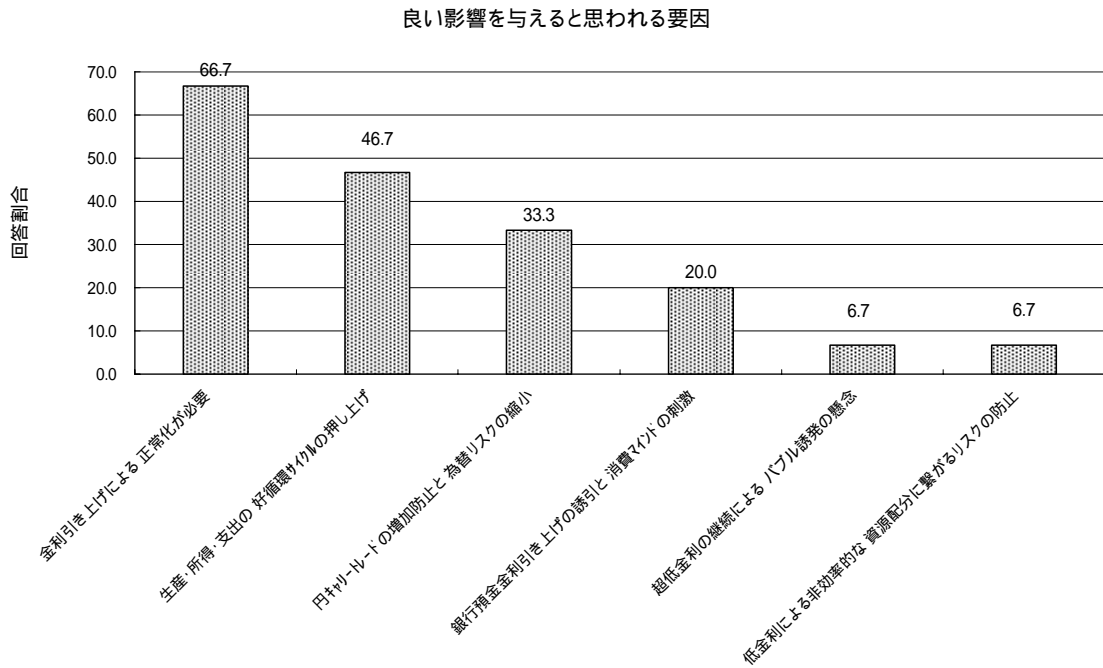
追加利上げが景気に与える影響



(3) 利上げが景気に良い影響を与えると思われる要因

((2)で「良い」「どちらかといえば良い」と回答した方のみ、2つまで選択)

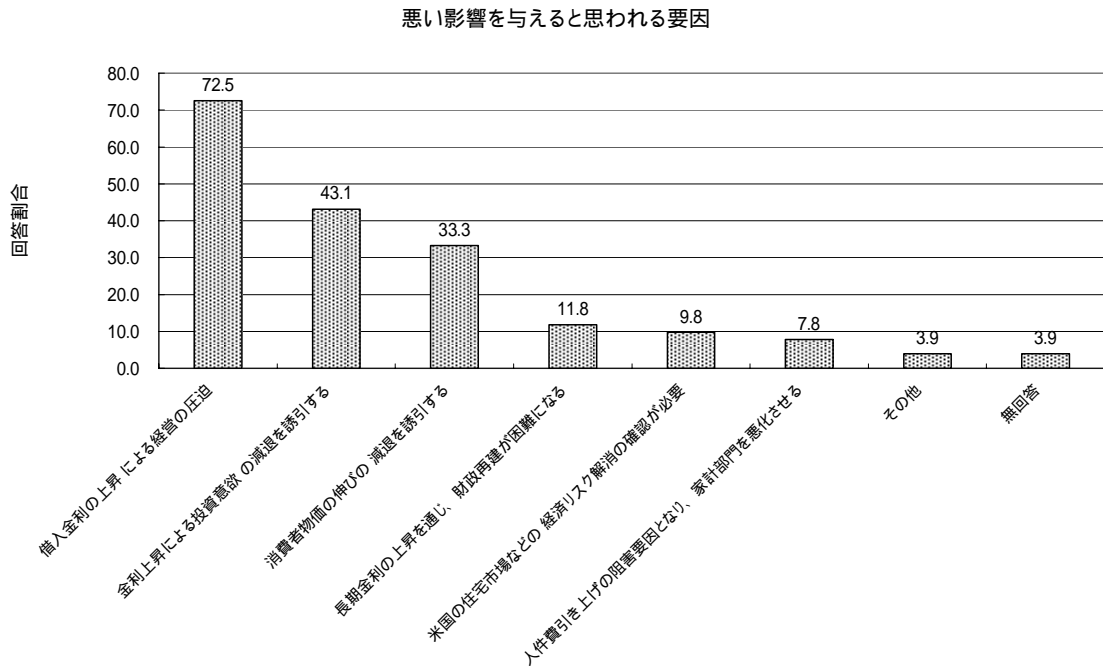
「金利引上げによる正常化が必要」との回答が、66.7%と全体の2/3を占めた。次いで、「生産・所得・支出の好循環サイクルの押し上げ」「円キャリ-トレ-ドの増加防止と為替リスクの縮小」と続いた。



(4) 利上げが景気に悪い影響を与えると思われる要因

((2)で「悪い」「どちらかといえば悪い」と回答した方のみ、2つまで選択)

「借入金利の上昇による経営の圧迫」が圧倒的に多く、「金利上昇による投資意欲の減退を誘引する」「消費者物価の伸びの減退を誘引する」と続いた。



以上